

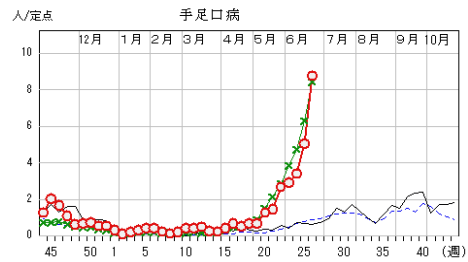
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第26週 2024年6月24日（月）～2024年6月30日（日）2024年7月4日作成

☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

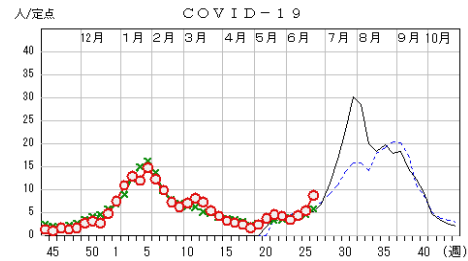
（1）手足口病

第26週の報告数は386人で、前週より164人多く、定点当たりの報告数は8.77であった。
 年齢別では、1歳（159人）、2歳（79人）、3歳（48人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（14.00）、県央保健所（13.43）、長崎市保健所（12.10）であった。



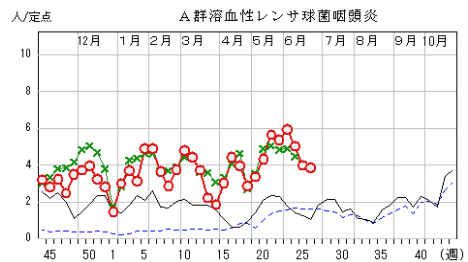
（2）新型コロナウイルス感染症

第26週の報告数は610人で、前週より235人多く、定点当たりの報告数は8.71であった。
 年齢別では、50～59歳（72人）、10～14歳（71人）、40～49歳（66人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（19.33）、県南保健所（13.25）、県央保健所（9.64）であった。



（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第26週の報告数は169人で、前週より6人少なく、定点当たりの報告数は3.84であった。
 年齢別では、10～14歳（26人）、5歳（21人）、3歳（20人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.20）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第26週の報告数は386人で、前週より164人多く、定点当たり報告数は8.77でした。2週続けて警報レベル開始基準値「5.0」を超えました。地区別にみても、佐世保地区（14.00）、県央地区（13.43）、長崎地区（12.10）、県北地区（7.00）、県南地区（6.80）、西彼地区（5.25）は「5.0」を超え、本土地区すべてにおいて、警報レベルとなっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第26週の報告数は610人で、前週より235人多く、定点当たり報告数は8.71でした。地区別にみると、上五島地区（19.33）、県南地区（13.25）、県央地区（9.64）は他の地区より多くなっています。年代別では10代、10歳未満が多くなっています。県全体では3週続けて増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第26週の報告数は169人で、前週より6人少なく、定点当たりの報告数は3.84でした。地区別にみると県南地区（12.20）は他の地区より多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：手足口病が流行しています

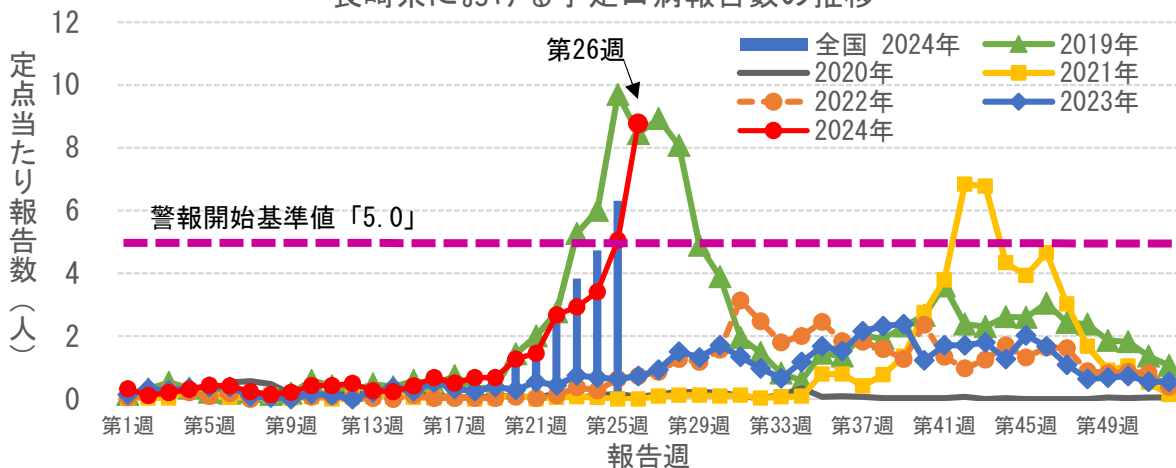
手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

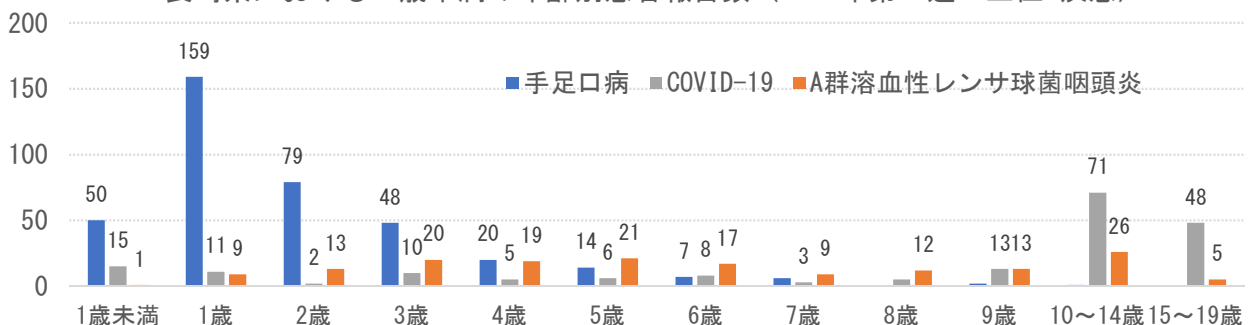
長崎県の第26週の定点当たり報告数は「8.77」で7週続けて増加し、2週続けて警報レベル開始基準値「5.0」を超えました。地区別でも、本土地区すべてで「5.0」を超えています。年齢別では、2歳未満で全体の75%を占めています。

今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



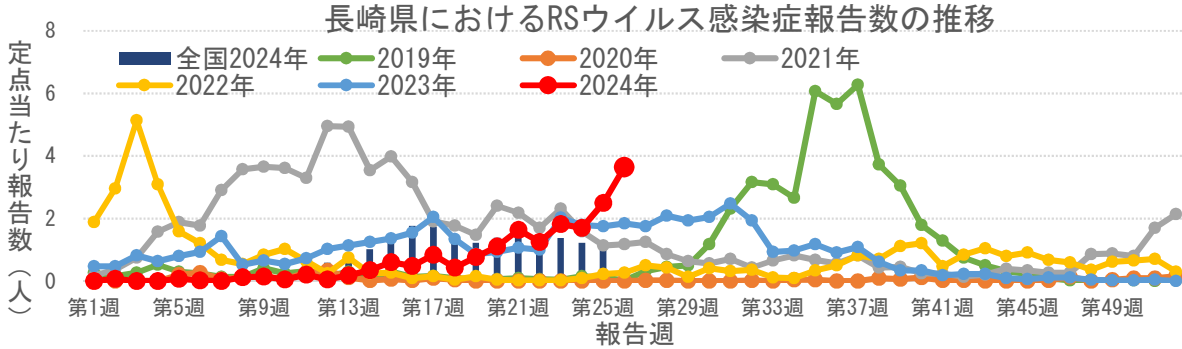
長崎県における20歳未満の年齢別患者報告数（2024年第26週 上位3疾患）



☆トピックス：RSウイルス感染症に注意しましょう

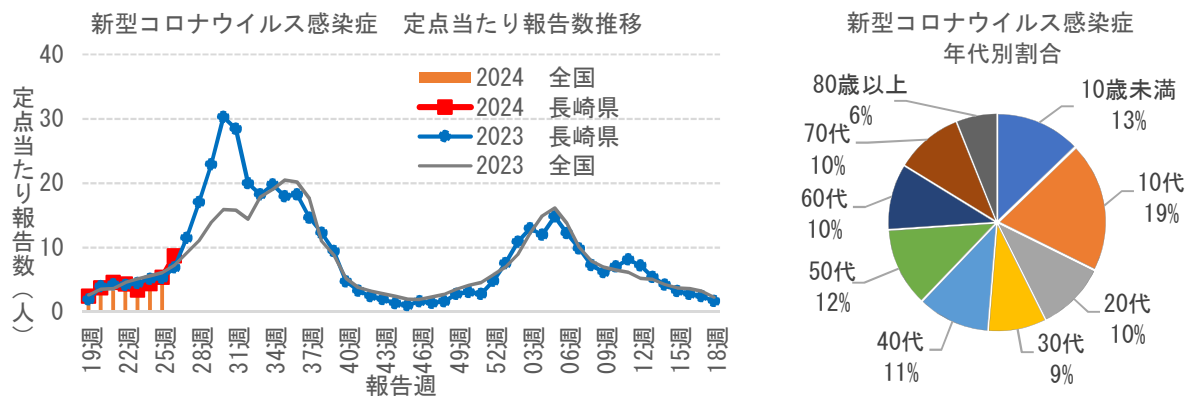
RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、乳幼児、特に6か月未満の乳幼児では、重い咳が出て呼吸困難や肺炎、脳症になることもあります。感染経路は接触感染や飛沫感染で、一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。

県内の第26週の定点当たり報告数は「3.64」で、例年の同時期より多くなっています。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。



☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第26週の定点当たり報告数は「8.71」で、3週続けて増加しました。2023年においては、7月から8月にかけて報告数の増加がみられました。今後も動向に注視し、場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。



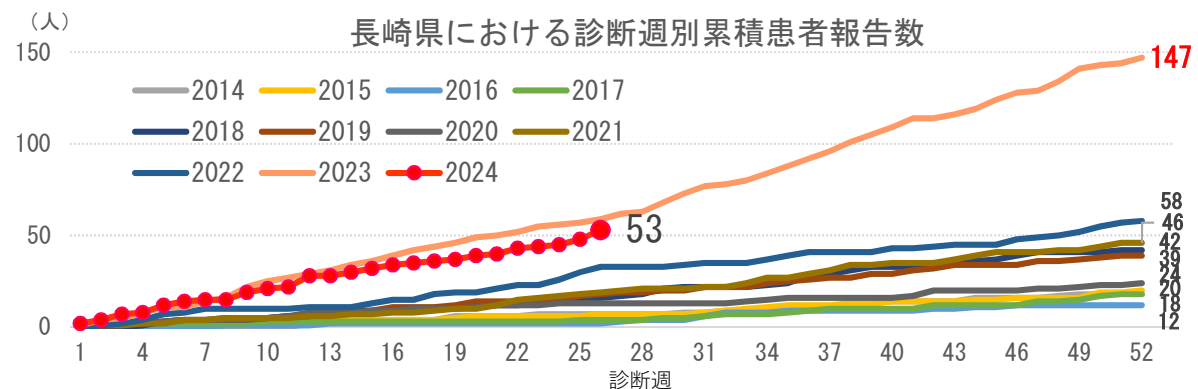
☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

長崎県では2024年第26週までに53件の報告があつています。

2024年の報告を年代別にみると、男性では40代および50代、女性では20代が多くなっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます（事前の連絡・予約が必要）。詳細は、長崎県感染症情報センター「梅毒の発生状況」に掲載しています。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（70代・1名、80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 男性（60代・1名、80代以上・1名）

4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（60代・1名）

5類感染症(全数把握対象)：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（70代・1名）
 梅毒 患者 男性（40代・1名、50代・1名、60代・1名）
 女性（20代・1名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第21～26週、5/20～6/30)

疾患名	定点当たり患者数					
	21週	22週	23週	24週	25週	26週
	5/20～	5/27～	6/3～	6/10～	6/17～	6/24～
インフルエンザ	0.16	0.29	0.11	0.09	0.04	0.20
新型コロナウイルス感染症	4.59	4.31	3.41	4.36	5.36	8.71
RSウイルス感染症	1.64	1.25	1.82	1.70	2.50	3.64
咽頭結膜熱	0.70	1.70	1.05	0.91	0.84	0.82
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	5.66	5.36	5.93	5.02	3.98	3.84
感染性胃腸炎	3.68	2.86	2.43	1.80	1.89	2.16
水痘	0.30	0.14	0.27	0.30	0.25	0.14
手足口病	1.45	2.68	2.93	3.41	5.05	8.77
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02	0.05		0.05
突発性発しん	0.25	0.34	0.30	0.36	0.32	0.48
ヘルパンギーナ	0.18	0.25	0.55	0.30	0.39	0.86
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05	0.09	0.02	0.07	0.14	0.02
急性出血性結膜炎						0.38
流行性角結膜炎	0.25		0.50	0.88	0.13	0.75
細菌性髄膜炎		0.08				
無菌性髄膜炎				0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.08	0.08	0.08	0.33	0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08			0.08	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第26週、6/24～6/30) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.20		0.53	1.00		0.18					
新型コロナウイルス感染症	8.71	4.91	8.41	8.33	6.33	9.64	13.25	9.00	7.00	19.33	5.33
RSウイルス感染症	3.64	4.83	5.60		1.25	2.43	4.80	8.00	1.67		
咽頭結膜熱	0.82	0.50	0.70		0.25	1.14	0.20	2.67		0.50	3.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.84	3.33	2.20		4.25	4.00	12.20	2.67	1.00	1.50	3.50
感染性胃腸炎	2.16	5.67	1.40	0.50	3.00	3.57	0.60	2.00			
水痘	0.14	0.33	0.20							0.50	0.50
手足口病	8.77	14.00	12.10		5.25	13.43	6.80	7.00	3.00	1.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.05		0.20								
突発性発しん	0.48	1.17	0.50	0.50	0.25	0.57	0.40	0.33			
ヘルパンギーナ	0.86	0.17	1.20		0.50	1.71	1.60	0.67	0.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02					0.14					
急性出血性結膜炎	0.38						3.00				
流行性角結膜炎	0.75						6.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											